

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
~6783



特集

豚コレラ・アフリカ豚コレラの発生状況と防疫対策
『迫りくる脅威』農場を^{まも}りましょう！



生産者主体の防疫演習
(関連記事4ページ)



目次

- ◆ 特集1 (2)
「国内における豚コレラの発生状況及び
防疫対策について」
新潟県中央家畜保健衛生所
病性鑑定課長 會田 恒彦
- ◆ 事業紹介 (4)
・毎年開催！生産者が主体となった防疫演習
- ◆ 家畜防疫互助基金（豚基金）の
生産者積立金の追加納付について (4)
- ◆ 平成30年度畜産経営改善指導
（畜産コンサル）実施結果 (5)
- ◆ 令和元年度定時総会を開催 (6)
- ◆ 令和元年度にいがた和牛総会を開催 (6)
- ◆ 声のコーナー (7)
「佐渡の和牛繁殖を目指して」
肉用牛従業員：佐渡市新穂 真貝 翔
「頑張る理由」
養豚従業員：十日町市上野 齊藤 実希
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより (8)
- ◆ ちくさん女子の窓 (8)
- ◆ 編集後記 (8)



国内における豚コレラの発生状況及び 防疫対策について

新潟県中央家畜保健衛生所 病性鑑定課長 會田 恒彦

◆はじめに

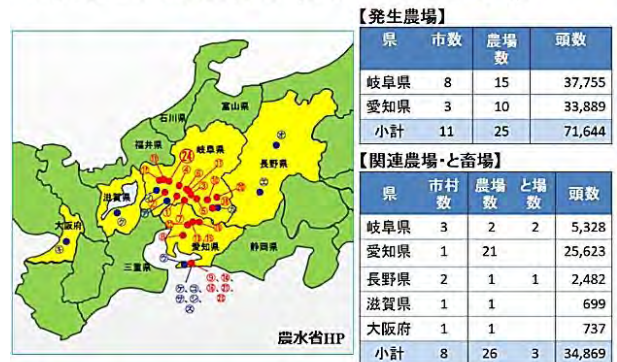
昨年9月、岐阜県岐阜市の養豚場において国内では26年ぶりに豚コレラが発生しました。本病は豚コレラウイルスの感染により、豚に発熱、衰弱、神経症状、急死等がみられる伝染病です。家畜伝染病予防法では口蹄疫等と並んで特定家畜伝染病の一つに指定されており、発生農場ではまん延防止のため、豚の殺処分、埋却、消毒等の防疫措置が実施されます。初発以降、発生は継続しており25事例で約10万6,500頭が殺処分されました。

国内の養豚業界は今、非常事態にあります。本稿を豚コレラ等の侵入防止対策の参考にして頂ければと思います。

◆国内の豚コレラ発生状況

岐阜市での初発後、同市や近隣の美濃加茂市等で6事例が発生しました。今年2月6日には、隣の愛知県に感染が広がり豊田市の農場でも発生が確認されました。この農場からは各地に豚の移動があり、渥美半島の田原市に発生が拡大した他、岐阜県、長野県、大阪府及び滋賀県の4農場と長野県の1と畜場でもウイルスが検出され関連施設として防疫措置の対象となりました。田原市では養豚団地での発生が続き最大規模は17,325頭の事例でした。その後も、岐阜県と愛知県で発生し、6月5日の時点で25事例、関連施設も合わせると、4県1府の15市1村、52農場及び3と畜場で106,513頭が防疫措置の対象となりました。

国内豚コレラ発生状況 (2018.9.9~2019.6.5)



防疫措置 25事例, 実15市1村, 52農場 106,513頭

◆今回の豚コレラ事例でみられた症状

多くの事例は畜主から豚の食欲不振、元気消失、流死産、死亡等の異常報告があり摘発されています。このほか、発熱、結膜炎、発育不良、耳翼等の紫斑（チアノーゼ）、歩行異常、元気消失した豚が寄り集まる状態もみられました。

農林水産省からは各事例を参考にした豚コレラ等の特定症状が通知されています。異状の早期発見の参考にして下さい。

豚コレラ及びアフリカ豚コレラの特定症状

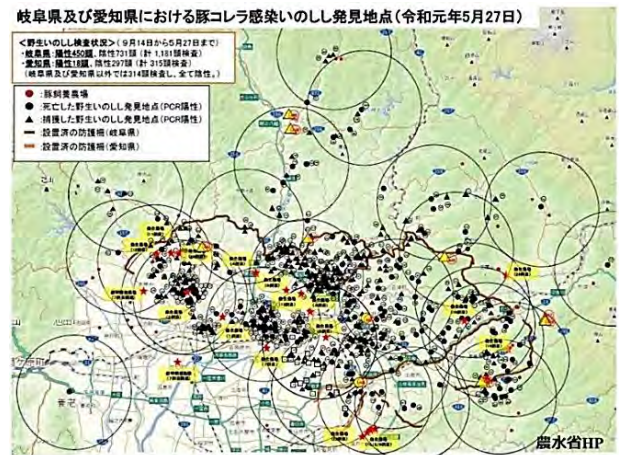
家畜伝染病予防法13条の2第1項

- ・耳翼、下腹部、四肢等に紫斑（チアノーゼ）があること
 - ・同一の高房内で以下のいずれかの症状を呈する豚が一定期間（概ね一週間）に増加すること（他の疾病によることが明らかな場合はこの限りでない）
- (1) 摂氏40度以上の発熱、元気消失、食欲減退
 - (2) 便秘、下痢
 - (3) 結膜炎（目やに）
 - (4) 歩行困難、後躯麻痺、けいれん
 - (5) 削瘦、被毛粗剛、発育不良（いわゆる「ひね豚」）
 - (6) 流死産等の異常産の発生
 - (7) 皮下出血、皮膚紅斑、天然孔の出血、血便
- ・同一の畜舎内で一定期間（概ね一週間）に繁殖又は肥育豚等が複数死亡すること（設備の故障、気温の急変、火災、風水害等、事情が明らかな場合はこの限りでない）

◆ 防疫対策

発生農場の防疫措置は自衛隊や新潟県を含む他県からの派遣獣医師等も参加して迅速に行われました。周辺農場では感染確認検査や飼養衛生管理基準に関する指導も実施されています。野生イノシシに関しては、感染確認検査、捕獲推進、防護柵の設置、経口型ワクチンの散布等の対策が取られています。このほか、全国の空港では海外からのウイルス侵入を防ぐため、禁止国からの肉製品等の持ち込みを摘発するなど検疫体制を強化しています。

新潟県でも農場への情報提供や巡回指導、豚及び野生イノシシの検査体制強化、新潟県特定家畜伝染病対策要領の制定等の対策を実施しています。



◆ アフリカ豚コレラの症状とアジア等における発生について

次にアフリカ豚コレラについて説明します。この病気も特定家畜伝染病の一つで、豚に発熱や出血がみられ致死率は80~100%にも達する極めて恐ろしい伝染病です。アフリカ豚コレラウイルスが原因ウイルスでワクチンはありません。もともとアフリカの常在病でしたが他の地域でも発生するようになりました。とくに、2007年にジョージアで発生後、ユーラシア大陸の東西に広がり、コーカサス諸国では半数~それ以上、ロシアでは約100万頭の豚が死亡又は淘汰されました。まん延の要因には、感染豚肉加工品の非加熱飼料利用、野生イノシシの感染、裏庭養豚や放牧など感染が起きやすい飼養形態等が挙げられています。

昨年8月、世界最大の養豚国である中国に侵入すると発生は数か月間で全土に広がり、6月2日までに146農場で発生し終息の目処は見えていません。また、ベトナムでも中国との国境付近で発生した後、南下しカンボジアでの発生に至っています。5月23日には北朝鮮でも1件発生し朝鮮半島にも拡大しています。このように、アフリカ豚コレラは各国で猛威をふるっており、清浄国の日本では厳重な警戒が必要です。



◆ アフリカ豚コレラの防疫対策

本病侵入防止のためには検疫及び各農場でのバイオセキュリティの強化が重要です。実際、空港で発見されたソーセージからアフリカ豚コレラウイルスが分離されており、危機は水際に迫っています。発生時は早期発見と迅速な防疫措置による封じ込めが極めて重要です。臨床症状は豚コレラと類似しており、診断は両疾病とも家保と(国)動物衛生研究部門での検査が必要です。前述の特定症状を参考に、異状が発生した際は家保へ早期通報するようにお願いします。

みんなで衛って、病原体の侵入を防ぎましょう!!

～毎年開催！生産者が主体となった防疫演習～

生産者を主体とした防疫演習を毎年実施（家畜防疫・衛生指導対策事業の防疫演習）

平成25年度から県内各地で生産者を主体とした「口蹄疫防疫演習」を県内各地で18カ所、生産者320名、関係機関等251名計571名の参加、延べ39機関の共催を得て、防疫演習を実施しています。家畜保健衛生所の職員を講師に「口蹄疫の初動防疫」のシミュレーションや車両消毒の実地訓練を実施しました。

生産者主体の演習は総務省新潟行政評価事務所の調査（平成26年）においても地域自衛防疫の取組として高い評価を得ており、万が一の初動防疫の内容を理解することにより、日ごろの意識が醸成され、生産者からも好評を得ています。

今年度は「豚コレラ」「アフリカ豚コレラ」等を対象疾病とした防疫演習を実施予定です。



机上演習：口蹄疫の初動対応



消毒実地訓練：車の消毒方法

年度	開催場所	出席者数			共催
		生産者	関係機関	計	
H25	魚沼市、新潟市秋葉区、新発田市	41	29	70	JA、酪農協同組合、家畜保健衛生所
H26	長岡市、阿賀野市、新潟市南区	43	36	79	JA、家畜商組合、酪農協同組合、家保
H27	柏崎市、上越市、新潟市西蒲区	50	44	94	JA、畜産グループ、農業振興協議会、家保
H28	長岡市、佐渡市、村上市	80	49	129	農業振興協議会、酪農協同組合、家保
H29	新潟市西区、十日町市、魚沼市	56	61	117	ミートプラント、農業振興協議会、家保
H30	新発田市、新潟市中央区、新潟市西蒲区	50	32	82	農業振興協議会、県酪連、畜産女子会、家保
合計	6年間で18回実施	320	251	571	延べ39関係機関が共催し571名参加、主な研修内容は「口蹄疫の初動防疫」「車両の消毒方法実地訓練」等

★お知らせ★

家畜防疫互助基金（豚基金）の生産者積立金の追加納付について

★豚基金（生産者積立金）の追加納付（300%）決定

岐阜県及び愛知県での豚コレラ多発により、豚基金の枯渇の可能性が生じ、今後の発生にも対応するため、豚生産者積立金の300%の追加納付が平成31年4月3日付けで農畜産業振興機構理事長決定がされました。6月に追加納付説明パンフレット配布、8月31日を追加納付締切と予定しております。県内の各委託先に契約のとりまとめをお願いしておりますのでよろしくお願い致します。

平成30年度畜産経営改善指導(畜産コンサル)実施結果

平成30年度の畜産経営改善指導（酪農経営11戸、肉用牛繁殖経営4戸、肉用牛肥育経営4戸、養豚経営6戸）の技術及び経営成績の平均を県指標値と比較し、改善点等を整理しましたので紹介します。なお、詳細は当協会ホームページに掲載しておりますので、併せてご覧ください。

◆【酪農経営】

経産牛平均種付回数は3.1回と指標値の2.0回以内より多く、経産牛平均分娩間隔も16.2か月（指標値14か月以内）と延長しています。主な要因は受胎率の低迷であり、不受胎牛の販売により経産牛平均産歴の低下にもつながっているため、分娩後70日以内での適期授精や妊娠鑑定の確実な実行、繁殖障害牛に対する早期治療により、受胎率を改善する必要があります。

経産牛1頭当たり飼養管理時間は、平均で262時間と指標値の120時間以内を大きく超えていました。労働1時間当たりの所得が326円という経営もあったことから、飼養管理の強化により、労働時間に見合う所得を確保することが必要です。

区 分	単位	30年度	指標値
経産牛平均産歴	産	2.2	3.5以上
経産牛平均分娩間隔	か月	16.2	14.0以内
経産牛平均種付回数	回	3.1	2.0以内
経産牛1頭当たり飼養管理時間	時間	262	120以内

◆【肉用牛繁殖経営】

平均分娩間隔は12.2か月と県指標値をほぼ達成していますが、受胎に要する種付け回数が1.6回と指標値よりやや増加している傾向が見られるため、適期授精や母牛の体調管理等に注意が必要です。

子牛事故率は3.3%と指標値をほぼ達成していましたが、経営間で大きく差が見られました。観察を強化して異常の早期発見・対処に努めるとともに、冬期の保温対策の徹底や良質な粗飼料の給与等、飼養管理を改善する必要があります。

区 分	単位	30年度	指標値
平均産歴	産	4	7以上
平均分娩間隔	か月	12.2	12.0以内
受胎に要する種付回数	回	1.6	1.5以内
子牛事故率	%	3.3	3以下

◆【肉用牛肥育経営】

枝肉重量と枝肉格付4等級以上率は指標値を達成しており、肥育技術の向上が見られる結果となりました。ただし、1日当たり増体重と出荷月齢が指標値を達成していないことから、コスト低減を図るためにも、育成期の腹作りや肥育前期における飼料増給、衛生管理の徹底等により、増体量の向上を図り、出荷月齢を早める必要があります。

区 分	単位	30年度	指標値
出荷月齢	か月	30.0	28.0以下
枝肉重量	kg	512	490以上
1日当たり増体重	kg	0.81	0.85以上
枝肉格付4等級以上率	%	89.3	80.0以上

※すべて去勢牛の成績

◆【養豚経営】

離乳から受胎平均日数は最も改善が遅れており、この影響で分娩間隔も長期化しています。離乳後の発情再起の遅れが目立つことから、授乳期の母豚が栄養管理や更新等、飼養管理のさらなる徹底が必要です。

また、肉豚期間平均事故率も指標値を達成せず、種雌豚1頭当たり肉豚出荷頭数も指標値を下回っていることから、衛生対策の強化や、授乳中の飼養管理から見直すことが重要となります。

区 分	単位	30年度	指標値
離乳～受胎平均日数	日	19	12以内
分娩間隔	日	157	150以内
肉豚期間平均事故率	%	7.5	5.0以下
種雌豚1頭当たり肉豚出荷頭数	頭	20.3	22.8以上

令和元年度定時総会を開催

令和元年度定時総会を令和元年6月19日に新潟市西区の全国農業協同組合連合会新潟県本部で開催しました。内容は以下のとおりです。

1 議事の経過

出席会員数

正会員62名中、本人出席16名、書面出席45名の出席により、令和元年度定時総会が成立。

会長挨拶

出席会員と来賓に謝意。上程する各議案に対し慎重審議をお願いし挨拶とした。

新潟県農林水産部長祝辞（副部長代読）

当協会が新潟県の畜産振興に大きく貢献していることに謝意を述べ、当協会と会員の健勝を祈念して祝辞とした。

議事録署名人の選任（2名）

- ・新潟県農業信用基金協会
専務理事 佐藤 俊彦 氏
- ・一般社団法人新潟県配合飼料価格安定基金協会
常務理事 勝海 喜一 氏

提出議案

- 第1号議案 平成30年度事業報告及び収支決算報告について
 - 第2号議案 理事3名辞任に伴う選任について
 - 第3号議案 令和元年度会費について
 - 第4号議案 役員報酬の決定について
- 附帯決議

報告事項

平成31年度事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて

2 結果の概要

提出4議案と附帯決議は出席者全員の挙手と書面による賛成で原案どおり成立し、報告事項も全員の了解を得た。なお、総会終了後に開催した理事会で代表理事副会長、専務理事を互選した。

【新役員】（理事11名、監事3名）

役名	氏名	備考
会長	今井長司	
代表理事副会長	安藤稔	新任
業務執行理事副会長	小林則幸	
専務理事	中林大	新任
理事	眞島操	新任
理事	水倉朗	
理事	五十嵐孝	
理事	井上久	
理事	井畑明彦	
理事	石山正博	
理事	青木克明	
監事	鈴木金次	
監事	永井充	
監事	渡邊弘	

令和元年度にいがた和牛総会を開催



にいがた和牛推進協議会（会長 花角英世知事）は、5月27日に新潟市西区の全国農業協同組合連合会新潟県本部ビルにおいて総会を開催しました。

提出された収支決算、収支予算等5議案はすべて原案どおり承認され、役員改選では次のとおり、副会長が新たに選任され、監事は現役員が再選されました。

役職	氏名	所属
副会長	安藤 稔	全農新潟県本部県本部長
	鈴木 勝也	(株)三国取締役会長
監事	萬羽 博文	新潟県家畜商協同組合理事長
	五十嵐大光	JAにいがた南蒲常務理事

（公社）中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる! 畜産! 2

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！
配信中の内容：IoT技術の活用／農場HACCP／搾乳ロボット／他



☐ スマートフォンからはこちら
☐ パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

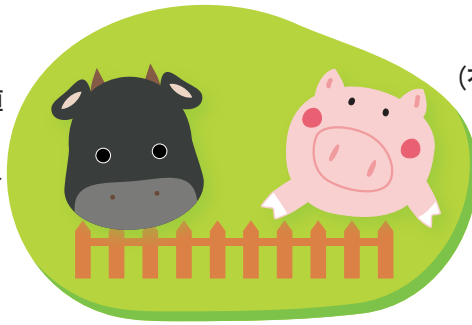


（公社）中央畜産会 経営支援部（情報） TEL03-6206-0846



JA佐渡
大型和牛繁殖
支援施設
肉用牛従業員

佐渡市新穂
真貝 翔



(有)澤口養豚場
養豚従業員

十日町市上野
齊藤 実希



『佐渡の和牛繁殖を目指して』

私は、高校卒業後、農業大学校畜産経営科へ入学しました。畜産経営科では、ホルスタインと和牛を飼育しており、一週間交代の当番制で学生が搾乳、給餌や発情発見を行っています。

私は畜産に関する知識は無く、ただ動物に携われる仕事をしたいという理由で農業大学校に入学しました。ゼロからのスタートでしたので当番の作業手順を覚えたり、繁殖学や飼料作物などの講義についていくことが大変でした。当番や実習では、先生や先輩、友人からのアドバイスを受け、いかに効率よく作業できるか、を考えながら過ごしました。

2年生になると削蹄師や人工授精師免許の取得、卒業研究のデータまとめ、就職活動など忙しい日々が続きました。就職活動では苦勞して取得した人工授精師の資格を生かせる仕事がしたいと思い、佐渡農業協同組合が開設した「大型和牛繁殖支援施設」(CBS)に今年の4月から働いています。

CBSには繁殖牛舎2棟、保育舎、育成舎、分娩専用の牛舎、病気を持った牛を隔離するための牛舎、そして同じ敷地内に和牛センターがあり肥育も行っています。作業量は農業大学校に比べると大幅に増え、終業時にはクタクタになって帰ることが多かったです。繁殖牛の発情兆候があれば主任と一緒に直腸検査、人工授精を行っています。私は人工授精師としては、まだまだ未熟で最後まで上手くできません。なので一人の力でできるようイメージトレーニングやアドバイスを聞き、近い将来、直腸検査から人工授精を一人でできるように努力をし、佐渡の和牛繁殖、畜産の発展に貢献できるように頑張りたいです。

最後に、畜産という仕事は、大変で辛い仕事ですが大変だという部分だけに焦点を当てるのではなく、畜産特有の楽しさや魅力を多くの人に知ってもらえればいいなと思います。

『頑張る理由』

私は生き物が好きで農業高校で畜産を学び、卒業後に養豚農家に就職して5年がたちます。地元を離れて養豚をすることに躊躇なく飛び込んでいった頃が懐かしいです。

毎日が新しい発見の連続でしかも大好きな豚に囲まれて幸せでした。でも同様に仕事も大変で苦戦の連続でした。それは仔豚があっさり死んでしまうことです。

仔豚は一度の分娩で約13頭産まれてきて初乳を飲みます。初乳には沢山の免疫と栄養が含まれていて飲めた量だけ丈夫に育ちますが母豚のお乳は多くて12。それより多く生むことがほとんどなので全頭に同じ量の初乳を飲ませることができなければ虚弱で死んでしまいます。そして授乳期間の3週間は母豚の下敷きになって死んでしまうこともあります。

母豚から離れても気温や空調で肺炎などの病気にかかり死んでしまいます。

大好きな豚に囲まれながら動かなくなった豚を運ぶことが苦しくなってきたころに同じ養豚グループの農家さんたちの集まりでこんな言葉を聞きました。「美味しく食べてもらうことが一番の成仏だよ。」

私はその通りだと思いました。

生まれながらに食肉として育てられるのなら食べてもらって「美味しい」と言ってもらいたい。その為には少しずつでも仕事を上達させて少しでも多くの豚を健康な状態で出荷まで生かすことです。

5年前よりも仕事も少しは上達したと思いますが、これからも少しずつ頑張っていこうと思います。



畜産安心ブランド生産農場だより

新発田市：新発田農業高校

私たち新発田農業高校生物資源科動物専攻は、3年生19人、2年生20人の生徒が、新発田市長峰地区にある畜産農場で日々肉用牛や豚、鶏の飼養管理をおこなっています。

豚班がクリーンポーク生産農場の認定を取得しようと考えた理由は、自分たちが育てた豚をより安全に安心して消費者に提供したいと思ったからです。取得のために豚舎の清掃（除糞、害虫駆除、掃き清掃など）を徹底し、毎日の豚の様子を日誌に細かく記録しました。

鶏班がクリーンエッグに認定していただくまでおこなったことは毎日の記録、観察の他に2つあります。1つ目は鶏舎と作業場をこまめに掃除することです。常に鶏舎、作業場が清潔であると鶏も作業をする私たちもストレスが減るからです。2つ目は夏場の暑さとワクモ対策のために多量の水を蒔き鶏舎の衛生管理を徹底することです。

この認定を取得したことにより、本校の文化祭「稲穂祭」などで卵や豚肉を販売する際に地域の方々へのPRとなり、また、校内販売の時などに生徒や先生方とコミュニケーションのツールとして活用でき、いろいろな方々から直接、感想やご意見をいただくことができました。

これからも応援してくださるたくさんの方々の期待に少しでも応えることができるよう日々の家畜の管理を頑張っていきたいと思えます。



ちくさん女子の窓

酪農経営 新潟市江南区：坂井 美幸

動物に携わる仕事がしたくて、農業高校に入学し、高校2年の夏に行った北海道酪農実習で、どっぷり酪農の魅力に取りつかれて帰って来ました。その後の進路は、北海道で酪農の勉強をさせてもらい、牛が好きな仲間と囲まれ、変態度がアップ!共進会も好きになりました。

大学の恩師の言葉で、酪農という仕事は「ら苦悩」になるのも「楽農」にするのも自分次第というのがありました。生き物相手なので、予定通りに行かないし、汚い事も辛い事もたくさんあるのが現実ですが、愚痴ってても楽しくないので、嬉しい事、かわいい事を見つけて、毎日を「楽酪」にしたいと思っています。さらに、酪農の魅力を発信したくて6次化にも取り組みました。新しい事を始めるのは、すごく勇気が必要でしたが、それ以上にかけがえのない出会いをいただきました。これからも、基本は酪農家としてプライドを持ち、外にも目を向けて「楽酪」を続けて行きたいです。



編集後記



読むのは好きけど書くのは苦手な自分にとって、編集担当というのは新鮮な仕事でした。締切が近づくにつれ目の前の原稿が立派な、あるいは素敵な文章でどんどん埋まってゆくのです。自分は一文字も書いていないのに!夢のような体験です。ご寄稿いただいた皆様、ありがとうございました。

以下私事。週末になるとギターを持って、近所のスタジオでセッションをしています。最初はごちなかつた演奏も、だんだんと息が合うようになりました。この会報誌が出るころには、ライブも終えているはず。大成功ならいいなあと、願いながらこの稿を書いています。

(真保 記)